



野良犬を愛される

松岡俊一郎（大岡山教会牧師）



今年の夏休みのメインイベントは、熊本・天草でのイルカウォッチンググループでした。野生のイルカの群れに船で近づいて見るというだけのものですが、青い空と広がる海原の中でのイルカの群れとの出会いは、心をリフレッシュさせ、赤ちゃんイルカが親イルカに浴うように泳ぐ様は癒しのひと時でした。日本は空前のペットブーム。CMも動物と赤ちゃんを出すと「はずれ」がないと言われるほどです。特に犬や猫の人気は高く、家族の一員として迎えられています。

世の中に孤独が蔓延し殺伐としているからこそ、純真無垢な動物や赤ちゃんが愛されるのでしよう。

聖書にも羊やロバが登場しますが、それらは生活の道具や糧であり、ペットは出てきません。憐みを求めるカナンの女に対して冷たい態度をとられるイエス様に、女が「小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです」と応えたときの小犬も、ペットではなく野良犬と考えた方がいいでしょう。その方が、女の言葉に深みを与えます。自分を愛されるべき可愛いペットではなく、無視され、追い払われるべき存在と自覚し、それでもイエス様の憐みを求めるのです。この信仰の姿にイエス様は感心されます。

振り返って、私たちはどれほどの気持ちでイエス様を求めているのでしょうか。いてもいなくても構わない存在、いてくれたらいいなと思う程度、普段の生活にはいなくても支障ないが、悩んだ時には頼りにする存在。私たちの信仰の「片手間さ」を反省させられます。また実際の生活と信仰を切り離して考えてしまう私たちの狡さと器用さが厭われます。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」神を愛するとはいいがたい生活があります。私たちのこの世での命は有限です。だからこそ、

その命を最高のものとして生き、幸せな生涯を送りたいのです。そのためには神を神としてあがめ、仕えることです。神様の前での私たちの姿を問い直し、すべてを捧げ、仕えていきたいと思ひます。

それぞれの場所で守られて

東教区女性会会長 市川直美



これまで会員の皆様の祈りとお働きにより歩みを進める事が出来ることを心より感謝をいたしております

今年4月の女性の集いの中では実際のボランティアの様子をより具体的に聞き、また大岡山教会松岡牧師より講演「何か出来るはず」のお言葉を心に刻みました 昼食を挟んで各個教会ごとに自己紹介し報告を聞き合いました 会場となった日吉教会の教会員の皆様に、聖歌隊やマイクのお世話までご協力頂

いた事に対し参加者みんなで感謝の気持ちをお伝えしました 互いの顔を合わせる事により一信徒として交流を持ち互いを知り合い、親しさと共に信仰による繋がりを感じました

8月には“夏のルーテルこどもキャンプ”(2泊3日)が神学校の学生寮を会場にして開かれ、私は2日目に見学をさせて頂きました 子どもは初対面同士もいる中で、すでにすっかり打ち解け合い元気いっぱいでした 6グループに分かれそれぞれ青年のリーダーが付いていました 伺うとほとんどの方がこのキャンプを経験した卒業生とのことでした 共に遊び・学び・他者を考える この経験を後輩に伝えたい思いでとても生き生きとしていました また、スタッフとして私の想像以上の人数の方が働き人として奉仕されておりました私達も次世代の子ども達のために支援し祈っていききたいと思ひます

10月26日(土)「女性の集い」が東京教会にて予定されています 今回は会員同士の話し合いの時間をじっくり持ちたいと思ひます 同地区の繋がりをさらに深めていくことにより互いの顔も見えてきます 女性会としての繋がりを深めていくためにどのようにしていけばよいか皆さんと共に話し合っていきたいと思ひます



甲信地区・女性の集いに参加して

天木鈴子 (大岡山教会)

6月14日東京から参加の市川、成田、天木の三姉は東京からは前日に特急あずさに乗って松本市に入りました。松本駅に迎えに来て下さった垣内さんに迎えられ、松本城やアルプス公園に案内されて美しいアルプスのふもとの街を愉しむことができました。翌日、松本の町から垣内さんに案内されて会場(甲信地区センター・松本教会)へ向かいました。この集まりは、新しい礼拝式文について式文委員の中島康文牧師をお招きし、式文についての学びを東教区教育部と甲信地区女性会合同で学ぼうと、会員、非会員、男女を問わず多数の方々の参加をよびかけられておりました。10時半開始・・・

「開会礼拝、奨励」野口和音牧師より、私たちだれもが主に招かれてここにいる。その恵みはその時代に生活している一人一人がよりよく受け取り、礼拝の中でよい交わりをもっていくためには、絶

えず変革が必要と力強く励まされました。「講演・新しい礼拝式文について」中島牧師より、現行式文から改訂式文への改訂部分の説明があり、礼拝の中心は神の働きによることを強調するため

「懺悔」に始まり「派遣」で終わった現行の式文を「招き」で始まり「派遣」で終わる形式に変更されました。

また、式文が仲介者となり聴衆の注目が十字架や祭壇に向くように、牧師の立ち位置に注意することが配慮された。讃美の歌は、どこでも楽しく歌えるようにいろいろなタイプが検討されていると歌声を交えての講義がありました。

中島牧師の楽しい講義と美声に会場には歌声と笑いが満ちて華やぎました。この地区の会員の方々が会場に集まるためには、2時間以上かかるという現実、参加者の方々のご苦労を実感しました。

また、会員の手作りの素晴らしい作品などの充実したお働きに感謝したひとときでした。東教区教育部の谷口和恵姉、甲信地区女性会のご案内でおおきな恵の機会をいただき感謝とともに、教区の地区活動としての今後の集まりにとっても参考になりました。



松本城をバックに、左から市川、垣内、天木、成田の女性会役員



松本教会で開かれた甲信地区女性会（2019年6月15日）



合同役員会に出席して

坪本告子(女性会連盟)



晴天の青空が晴れ渡る6月に、日本ルーテル神学校に行われました女性会連盟の合同役員会に出席致しました。「神学生とともに」プログラムでは、女性会連盟の歴史を再度、勉強させて頂きました。3人の神学生の自己紹介は元気で明るい笑顔で盛り上がり、楽しい話題と美味しいお食事でお腹

いっぱいです。初めてお会いしたばかりですが、又、お会いするのが楽しみになりました。女性会連盟の時代移り変わる中でも共にいて下さる方々に励まされ力を頂きました事を感謝致します。神学生と神学校に主のお働きがあります様にお祈りいたします。

春の女性会の報告

垣内恵子 (諏訪教会)

白くて新しい日吉教会に於いて 2019 年 4 月 27 日に「春の女性の集い」が行われました。開会礼拝は多田哲牧師の奨励から始まりました。午後は松岡俊一郎牧師の「何かできるはず」と題して、それぞれの被災地に出かけてボランティアの活動について熱を込めて話してくださいました。その後は女性会の様々な活動の報告がありました。その現状報告をそれぞれの実際にあたっている協力委員団体の活動の実体験を聞くことができましたので以下その現状報告をしていただきました。

女性会参加に当たりこんなうれしいメールを頂きました

春の女性会 (2019 年 4 月 27 日・日吉教会) に参加して・・・

牧野正子(湯河原教会)

いつも大変お世話になっております。この度はシャロンの花だより 24 期第 2 号を送付下さり、ありがとうございます。内容の濃い充実した紙面に、圧倒されました。東京から遠く離れた諏訪教会の皆様が編集を担って下さっていることを知りました。ありがとうございます。何もできませんが、せめて、日吉教会での春の集いに、たった 1 人ですが参加させて下さい。よろしく願いいたします。



ボランティア活動報告

東京老人ホーム

木村富久子(保谷教会)

この活動は、1990 年東京老人ホームめぐみ園 (特別養護老人ホーム) 創設後、東教区婦人会 (現女性会) により開始されました。当初は 100 名を超していた奉仕者も今では 30 名を切っており、保谷教会からは 6 名が登録しています。2011 年 21 期教区女性会役員任期終了後、私に活動への参加の機会が与えられました。現在月 2 回奉仕しています。

午前中は入浴後のケアとして髪を乾かして整え、靴下・靴を履かせ、合間にフロアの掃除、話し相手、テーブル拭き、見守りなど、午後は、ゴミの回収、各部屋のタオル交換、衣類の補修、名前付、汚物入れ袋作り、捨て布作りなどが私の活動内容です。

私は主に2Fを担当していますが、時々飲み屋のお姉さんに間違われ、「お酒2本と柿の種のおつまみお願いします!」と認知症の方に所望されます。辻褄の合わない話も多々あり

ますが、真面目に耳を傾け否定しないで受け止めています。床掃除をしていると、「お忙しいのに遠くからご苦労様です」、「中にいると外の人と話す機会が無いから話せて嬉しい」とお声掛け頂くこともあり、励まされます。暖かいお言葉に感謝しつつ、次回お会いできる時もお元気で楽しい会話が出来るよう、ご無事で過ごされることを願っています。

奉仕される方も少なくなりましたので、ご協力頂けますようお願い致します。



入居者に靴下をはかせている光景

ほしくずの会

大牧正子（雪ヶ谷教会）



「ほしのいえ、ほしくずの会」に長く関わってこられた方が大勢いらっしゃる中、僭越とは思いますが少しお話したいと思います。

ご存知のように、ほしくずの会は山谷の路上生活者の為に炊き出しをしています。カトリックのシスター、中村訓子さんが25年以上前に初められて、ルーテル教会も初期から協力してきたそうです。初期のことはまだ浅い私にはよくわかりません。活動は3つの班に分かれていて、第一はおむすびを作る、第二はみそ汁を作る、第三はそれを配るといっておおよそ3つに分かれています。

おむすび作りですが、まずご飯を炊く方が11時ころに来て、お米を研ぎご飯を炊いてむらし、おむすびを結ぶ方々を待たせないように次のご飯を炊くことです。おむすびを作る人は大体1時ころから来て、ご飯を計る人、梅干しを入れる人、塩で結んで海苔をまく人、ラップで包み数を数えて発泡スチロールの箱に入れる人などがいて、テキパキとしかし和気あいあいと仕事を進めています。

大体3時前にはおむすび作りが終わり、部屋がきれいに片付いたら野菜刻みの出番です。寸胴鍋2つに水とだし雑魚を入れて沸かし、その間に油揚げ、わかめ、ネギ、玉ねぎ、ジャガイモ、キャベツなどをみじんに切ります。具はその時期により白菜、大根、かぼちゃ、サツマイモなど、あるものや頂いた野菜を入れます。みじん切りにするのは、紙コップで飲んだ後に具が残らないようにするために、箸やスプーンを使わないために、最後にくるっと回して全部飲み干せるようにするのです。その後石川さんという方がみそ汁の味付けを整えてくださいます。

最後は夕方7時ころに出来上がったおむすびと味噌汁を車に乗せて、山谷の4カ所に行って待っている人々に配ります。私は「夜回り」と呼ばれているこのおむすび配りに参加したことがなくお話を聞くだけですが、皆さん楽しみに待っておられ、特に寒い時期は暖かいおむすびと熱々のみそ汁をととても喜ばれるそうです。

毎週火曜日に日比谷線の三ノ輪から10分くらいの「ほしのいえ」で活動しています。月に1回か2回、自分たちの出来るところに入って参加させていただきます。私は主に野菜刻みに月2回参加しています。私が一番この活動で良いと思うのは、おむすび作りに来ている方の多くが、以前おむすびを貰った側の人だということです。自分が昔食べ物にも困っていた時に助けてもらったので、今困っている人の為に、毎週火曜日の午後時間を割いておむすびを作りに来る方々です。この活動が長続きする基になっていると思いますし、私たちにも気力を与えてくれます。いろいろな経歴の人おしゃべりしながら和気あいあいとおむすびを作るのは楽しいものです。

こんな表に見える活動のほかに、包丁を研いでくださる方、梅干しの種を取って鰹節と混ぜておく人、野菜やお米を送ってくださる方、ある農家では田んぼを一枚ほしのいえに提供して下さって、毎年田植えや稲刈りにみんなで出かけるそうです。それに皆様からの献金とお祈りは私たちの大きな励みであり支えとなっています。

最初は立ちっぱなしで大丈夫だろうか？いろいろな野菜をみじん切りにして肩が痛くなったり腱鞘炎になったりしないだろうか？などと心配したのですが、一度もそんなことはありませんでした。4～5年前はおむすびも800個も作っていましたが、最近では500位でかなり少なくなっています。山谷の皆さんに仕事と住まいが与えられて、炊き出しが必要でなくなることが一番の希望ですが、現在必要な人がおり、待っている人がいらっしゃる限り炊き出しは続きます。働く人の年齢も上がっていますので、人手の確保と経済的な支援はまだ必要です。よろしくお願い致します。



「いつくしみ」の活動から

石飛久子(稔台教会)

4月11日の「いつくしみ」研修会には50名近い参加者を与えられ感謝でした。小勝先生の礼拝に始まり、清重先生からいつくしみの原点とも言えるルツ記の学びを、そして女性会連盟で献金を捧げているサバ神学院のケンピン先生から最近の学院の様子や中国伝道についてお話しして頂きました。サバへの献金開始と「いつくしみ」発足が同時期だったことは神様のご計画だったのでしょうか。参加くださった皆様ありがとうございました。

私が「いつくしみ」に関わって15年程が経ちます。18期教区女性会役員の任期を終えてホッとしていたら、石原京子さんから「いつくしみ」のご奉仕をお願いできないかとお話がありました。教区女性会で「いつくしみ」の集いをしたこともあり、何より大先輩の石原さんからの言葉に素直に従ったのがきっかけでした。

「いつくしみ」は他の二つの協力委員(NCC・ACWC)の活動が超教派であるのに対し、ルーテル教会(主に4団体)のそしてアジアの女性たちとの関わりが主な活動になります。

かつてはAPATSと呼びAPELTになり、現在は「いつくしみ」と称していますが、アジアの女性と共に学び交流し、互いの意識と信仰を高めることを目指しています。

これまで韓国や台湾、香港の方々と行き来し、それぞれの異なる風習や伝統の中で培われてきた信仰生活のあり方を目の当たりにしてきました。表現の違いはあるものの根底には、神への絶対的な信頼、

信仰の姿、ただ主をのみ信じ主のお役に立ちたいという共通の思いを見出すことができました。中でも韓国の姉妹方の熱心さと率直な表現力には、後ずさりするほどの力強さと優しさを覚え大いに刺激を受けました。

何回かの研修会で女性であることとその役割、信仰者でありこの社会の一員であること、そしてまだまだ学びの途上にあることなどに気づかされ、自分自身のあり方を振り返りつつ歩んできたこの15年ほどです。

これまで多くの方々が、お忙しい中を一緒に共有できる時間を求めて「いつくしみ」の企画にご参加くださいました。皆さんの求める「このことを聞きたい・知りたい」「交わりのひと時をもって互いを理解したい」「知るだけでなく手を携えて一歩前進したい」という思いに応えるために活動の内容や企画について大いに悩みながら計画しています。自分がどうありたいか、何をしたいか、どうすれば多くの人と触れ合い学び合うことが出来るかという思いで臨んでいます。講師の方たちや集って下さる方たちの信仰・学ぶ姿勢・生き方を知り、共に分かち合い、自分たちに投影し、信仰を深め合えたら素晴らしいと思います。この活動は毎月とか毎年とかという縛りを持ちません。どうぞ皆様のご要望やご意見もお聞かせください。

私が何とかここまで来られたのは、先輩方や教会の姉妹方の深い理解とお導きの賜物であると思います。「今よりもっと主を信じ、今よりもっと周囲を愛しいつくしみ、今よりもっと若く柔軟でありたい」のが私の願いです。

※いつくしみの組織は以下の団体からなっています。

関東地区は日福（日本福音ルーテル教会）とNRK（日本ルーテル教団）

関西地区は日福、近畿福音ルーテル教会、西日本福音ルーテル教会

※合い言葉「見よ、きょうだいが共に座っている。何という恵み、何という喜び。」 詩編 133：1

一日神学校のミニショップ 女性会ブース 2019年9月23日



今回は、多くの女性会から、心のこもった献品をお預かりしました。松かさでクリスマスオーナメント等作品は子供たちに人気それぞれ色違いのリースを求め、お財布を持ったお子さんが何度も店をのぞいて買い物をたのしんでくれました。

年配の方に好評だったのは、生活の中からアイデアにとんだ作品でした。また、レース編みの花瓶敷きを洋服に付けようと選んでいた方もありました。テーブルに並び切れなかったお品がありますので、秋の会長会で、作品を皆さんにアピールしていくつもりです。





秋の女性会・女性の集いのお知らせ

日 時	2019年10月26日(土)	
受 付	10:00	終了14:30
場 所	日本福音ルーテル東京教会(東京都新宿区大久保1-14-14)	
	***** プログラム *****	
開会礼拝	10:30	説教 関野和寛・東京教会牧師
活動報告		
	11:30	昼食 各自持参
	12:15	会員同士の話し合い
閉会礼拝	14:00	小勝奈保子・聖パウロ教会牧師

今後の予定・ご案内

- 10月18日(金) ACWC研修会
- 10月26日(土) 秋の会長会・女性の集い 場所;東京教会
- 11月16日(土) 東京老人ホーム訪問
- 2021年6月3~4日 女性会連盟総大会 熊本にて開催予定

編・集・後・記

会報も3号目となりました。少し慣れてきて油断しました。秋はなにかとあわただしく、時間切れの中でようやく皆様に励まされて会報を出すことができました。女性会を牽引して下さる役員や各会の協力委員の方々から原稿を寄せていただきました。お忙しい中ボランティアの活動に邁進してくださっている姿に頭の下がる思いです。感謝。(文書・垣内)

【シャロンの花だより】

- 東教区女性会会報 第95号 (24期 第3号)
- 発行日 2019年10月10日
- 発行人 日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会
- 発行者 市川直美 ■編 集 垣内恵子